

# 三種町農業人材育成事業報告

本事業は、農業の中核となるべき農業者の方がたが、先進農業地の優れた農家から、マーケティング、生産技術等を体得することを目的に研修補助を行っています。

## JA秋田やまもとミニトマト部会 研修報告

### ●研修の概要

播種から収穫に至る肥培管理や青枯・根腐病対策を学ぶ。また、品質や高温対策、それらに伴う資材利用についての技術習得や直売所で販売されている品種・品質についても調査する。

### ●部会長 相沢 孝記

はじめに、JA鹿児島いずみで、ミニトマト部会の概要について伺いました。JAいずみの



◆視察研修報告書  
JA秋田やまもとミニトマト部会  
研修地：鹿児島県  
JA鹿児島いずみ・たわわタウン山谷

ミニトマト部会員は34名、作付面積は1万8330坪で、年間3億2000万円の販売実績です。

生産に関する取り組みとして農林水産物認証制度の取得や毎月の現地検討会の実施や各市場への消費地会議、女性部を中心とした試食宣伝活動に取り組んでいるそうです。ミニトマト選果施設においては共選作業をしており、荷受けから洗浄形質選別や自動製函に至る選果を8.6t/日で処理しています。

品質の統一・維持として理想であり、同時に産地の維持や発展、それに伴う消費者ニーズに応えるためとして有効であると思います。

JA鹿児島いずみ管内ではミニトマト部会長の石原氏の圃場を視察しました。9月から翌年6月にかけて千果・子鈴・恋味を作付けしています。一番の関心事である青枯



れ病について、20年連作しているが病気の発生はしていないとの事。対策として土壌改良の重要性を挙げ、化成肥料の施肥のみでは栽培しないことや、台木品種の選定やそれに伴った、病虫診断の重要性について助言を頂きました。

次に「たわわタウン山谷」を視察しました。Aコープと同じ施設に直売として青果物を販売している店舗です。

周年を通した作付け・収穫を行っているため、数多くの品目を確認できました。かなめのミニトマトは、「千果」が多く出荷されています。一番の理由は食味でありました。

三種管内では、「千果」と千果の裂果率から減収を避けるため、「サンチエリーピュア」の2品種で出荷をしています。将来の面積拡大に伴った、販売促進を進展させるには千果オンリーの作付けも検討する必要があると感じ、今後、提案したいと思えます。

どの圃場においても、病害発生の際の媒介となるコナジラミ抑制が基本となっておりウイルス感染に対して特段の防除を意識していると感じました。

### ●相澤 誠紀

初めて「小鈴」という品種を拝見しましたが、食味はもちろん栽培特性も容易と感じました。私たちが「ピュア」の作付けを多くしていますが、千果やこの小鈴の作付けも試作してみたいと思います。特に青枯病の発生に伴った助言にあたり、今年の施肥設計を替え作付けしたいと考えています。

### ●清水 伸

九州地方での台風対策について質問しましたが、ハウス倒壊を防ぐた



め地域の生産者で台風の度に各生産者のハウスを剥がす作業を行っていることには驚きました。

三種管内でも、強風による倒壊の危険性は年に何度かありますが、参考に値する作業だと思いました。

### ●檜森 元明

秋田やまもとと同じ面積規模でありながら販売金額は2倍以上であることは、収穫時期の長さが理由でしたが、選果場の存在は魅力でした。品質維持の統一はもちろんですが、収穫後の調整がなくなる事は作付け拡大へも繋がります。今後の、び代ある品目で有るため、この様な施設があれば理想と感じました。

### ●加賀谷春美

「たわわタウン山谷」において拝見したミニトマトの形質や光沢に生産者により差はありましたが、どの品もレベルが高く購入・試食してみました。糖度が高く、説明のあった土壌改良の重要性を感じました。

### ●工藤 一誠

ミニトマト部会の中でも、土壌病害の発生が増えてきていますが、J